

## 病害虫発生予察注意報第1号

### 佐賀県

早生及び中晩生のタマネギにおいて、べと病の二次伝染による発病が認められます。本病による被害を抑制するには、全ての圃場で越冬罹病株の抜取りとジマンダイセン水和剤等による防除を徹底し、今後の発生拡大を抑える必要があります。

については、下記を参考に、生産者への指導をお願いします。



べと病の二次伝染により生じた病斑

**作物名：タマネギ（早生及び中晩生品種）**

**病害虫名：べと病**

#### 1 注意報の内容

発生地域：県内全域

予想される発生量：平年より多い

#### 2 注意報発令の根拠

##### 1) 現地ほ場での発生状況

###### (1) マルチ栽培早生タマネギ（表1参照）

平成30年4月2～3日に、定点圃場（県内各地の10圃場）を調査した結果、越冬罹病株の発生株率は0.11%であり、前年同時期（0.18%）と同程度であった（写真1）。

越冬罹病株から飛散した胞子の二次伝染による発病株の発生圃場率は10.0%であった。また、発生株率は0.01%であり、甚発生した平成28年（87.6%）に比べ低いものの、発生時期は前年（0%）に比べ早い。

なお、定点圃場以外の一部圃場では、薬剤防除が不十分のため、二次伝染による発病株率が30%を超え発生が拡大した圃場も認められる。

###### (2) 露地栽培中晩生タマネギ（表2参照）

上記と同日に、定点圃場（県内各地の10圃場）を調査した結果、越冬罹病株の発生株率は0.51%であり、前年同時期（0.35%）と同程度であった。

越冬罹病株からの二次伝染による発病株の発生圃場率は20.0%であった（写真2）。また、発生株率は0.17%であり、甚発生した平成28年（57.4%）に比べ低いものの、発生時期は前年（0%）に比べ早い。

##### 2) 今後の気象

福岡管区気象台の予報（3月29日）によれば、向こう1か月の九州北部地方における、降水量は平年並となる確率が高いと予想されているが、この時期の天候は、例年、周期的に変化するため、降雨後に胞子の飛散が起こり、本病の発生が拡大する恐れがある。



写真1 マルチ栽培早生タマネギに発生した越冬罹病株  
(平成30年4月3日撮影)



写真2 露地栽培タマネギに発生した二次伝染による病斑  
(平成30年4月3日撮影)

表1 早生マルチタマネギでのべと病の発生状況 (平成30年4月2~3日)

調査地点	発病株率 (%)		
	越冬罹病株	二次伝染による発病株	
A地区 ①	0	0	
A地区 ②	0	0	
B地区 ①	0	0	
B地区 ②	0	0	
C地区 ①	0.05	0	
C地区 ②	0	0	
D地区 ①	0	0	
D地区 ②	0	0	
E地区 ①	0.95	0.10	
E地区 ②	0.05	0	
平均発生圃場率 (%)	本年値	30.0	10.0
	28年値	多発により調査不能 注)	100
	前年値	44.4	0
平均発生株率 (%)	本年値	0.11	0.01
	28年値	多発により調査不能 注)	87.6
	前年値	0.18	0

平成29年及び30年は1圃場2,000株調査  
平成28年は1圃場50株調査

注)平成28年は二次伝染による発病株が多発したため、越冬罹病株との判別不可能

表2 中晩生露地タマネギでのべと病の発生状況 (平成30年4月2~3日)

調査地点	発病株率 (%)		
	越冬罹病株	二次伝染による発病株	
A地区 ①	0	0	
A地区 ②	0	0	
B地区 ①	0	0	
B地区 ②	0	0	
C地区 ①	0.10	0	
C地区 ②	0	0	
D地区 ①	3.25	0.45	
D地区 ②	0	0	
E地区 ①	0	0	
E地区 ②	1.70	1.20	
平均発生圃場率 (%)	本年値	30.0	20.0
	28年値	多発により調査不能 注)	100
	前年値	28.6	0
平均発生株率 (%)	本年値	0.51	0.17
	28年値	多発により調査不能 注)	57.4
	前年値	0.35	0

平成29年及び30年は1圃場2,000株調査  
平成28年は1圃場50株調査

注)平成28年は二次伝染による発病株が多発したため、越冬罹病株との判別不可能

### 3 防除上注意すべき事項

タマネギべと病は、周辺ほ場まで広く伝染するため、地域全体で防除対策に取り組む。

#### 1) 越年罹病株の抜き取り徹底

各ほ場において発生状況を必ず観察し、**越年罹病株を認めた場合には直ちに抜き取りを行う**。抜き取った株は放置せず適切に処分する。

#### 2) 薬剤防除の徹底（図1参照）

今後の薬剤防除は、効果の高いジマンダイセン水和剤、フロンサイドSC、シグナムWDGにより実施する。なお、使用に当たっては、農薬使用基準（収穫前日数、総使用回数等）を遵守する。

##### 【早生タマネギ】（収穫日5月5～10日を想定）

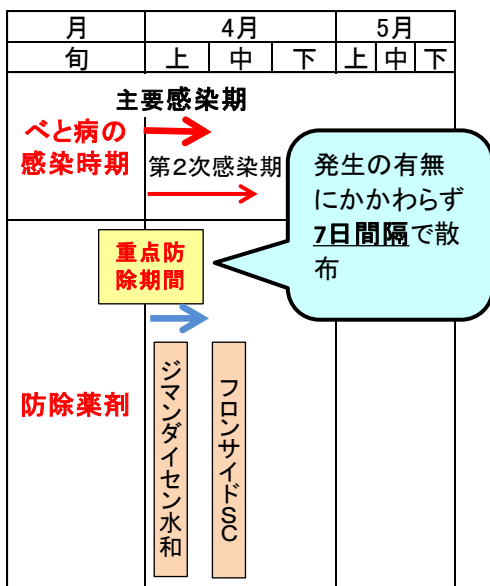
4月上旬までの重点防除期はジマンダイセン水和剤を7日間隔で散布し、4月中旬にフロンサイドSCを散布する。なお、発生圃場では4月下旬にもシグナムWDG等による薬剤防除を実施する。

##### 【中生・晩生タマネギ】（収穫日5月22～30日を想定）

4月下旬までの重点防除期は、4月中旬までジマンダイセン水和剤を、4月下旬にフロンサイドSCを7日間隔で散布し、5月上旬はシグナムWDGを散布する。

なお、**早生品種の収穫中であっても防除を継続する**。

早生タマネギ（マルチ栽培、定植日11月中・下旬、収穫日5月5～10日を想定）



中生・晩生タマネギ（露地栽培、定植日11月下旬、収穫日5月22～30日を想定）

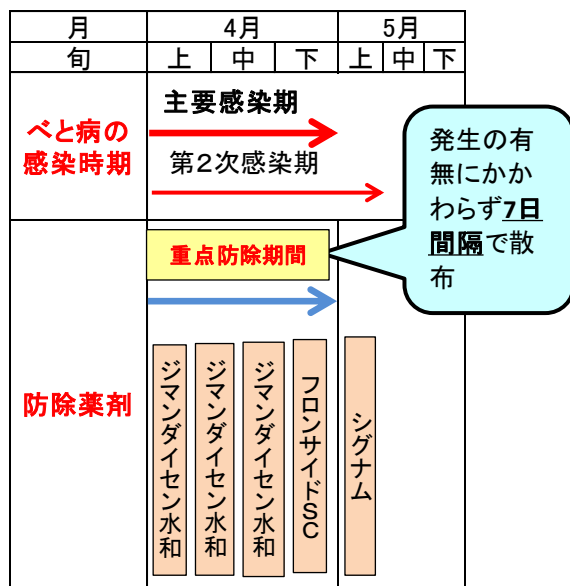


図1 タマネギべと病の発生と本病を主体とした防除体系(例)

#### 【各作型共通】

- ① 週間天気予報により曇雨天が続くと予想される場合には、**降雨前に防除を実施する**。
- ② 重点防除期間においては、雨の合間でも可能な限り防除を行い、**散布間隔を1週間以上空けない**。
- ③ 降雨等により圃場条件が悪く乗用管理機で防除できない場合には、動力噴霧器による**手散布で対応する**。

#### 3) 排水対策の徹底

圃場内に雨水が停滞すると、本病が発生しやすくなるので、溝切り等の排水対策を徹底する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部  
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088  
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085